



## 2/12(土)青年フェスタに130人

### 府下の学校の様子、若い先生どうしが交流出来る貴重な集まり

2月12日(土)、たかつガーデンにおいて、第34回「青年フェスタ」が開催され、府下の教職員120名が参加し、分科会のレポート発表、各分野のベテランによる実技講座、LGBTQの全体講演など多彩な内容に参加して、終日学習や交流に熱心に取り組んでいました。

#### 34年目になる青年の学びと交流の場

青年フェスタは、今年34年目を迎える、府下の若い先生



が集まり交流し学び会える貴重なあつまりです。、学校や勤務している市をこえて、府下の学校の様子や若い



先生の働き方、抱えている思いや悩みが交流でき、参加した人たちがエネルギーをもらえ、明日からの実践に生かせる教材や、教師としてのものの見方や考え方を深めることが出来ると、毎年多くの参加で開催されてきました。コロナの間はオンラインなどの開催にもなりましたが今回は待望の集合・対面による開催となり、多忙な3学期の日曜日にもかかわらず、130名の若い先生たちの参加がありました

#### 知らないことがいっぱい勉強できた、明日からの授業やクラスでさっそくやってみたい

若い先生による多彩なレポート発表や、ベテランの先生による実技講座などどれも内容の充実したものばかり。参加した先生たちからも、「明日からの授業やクラスづくりでさっそくやってみたい」と感想が寄せられていました。

文科省や委員会など上から求められる教育課題ではなく、現場や直接子どもにかかわる人たちによる、子どもの実態から出発した実践に、参加者は熱心に聞き入って、講座に参加していました。

全体会の光本さんからは、LGBTQの人たちにかかわるお話をいただき、「知らないことがいっぱい勉強できた」と学校現場に今求められている視点を学ぶことができたことと好評でした。

#### 現場の実践、自主的な取り組みの交流が重要に

次々と教育課題、教育方法が上からおろされて、取り組みが求められている中で、教育の本来の営みである、

目の前のことども思いを受け止め、実態から出発して、自主的に教育活動を作っていくことがますます重要になっています。

自主的な取り組みの中で、教師としてのやりがい、子供の成長にかかわることのできる充実感が実感できることが青年フェスタの取り組みでも明らかになっています。



枚方教組も「まなび庵」など自主的な教育実践の交流を大切に取り組んでいます。ぜひ、枚方教組に加わって、一緒に自主的な教育実践交流を広げていきましょう。

## どうする枚方！市役所移転と周辺のまちづくりを考える学習会2/11(土)

2月11日(土)に、旧メセナ枚方で「市役所移転と周辺のまちづくりを考える学習会」が開催されました。

今回は、今まで運動に取り組んできた3つの団体が新たに「枚方のまちづくり尾を考える市民ネットワーク」(仮)を結成。建築・都市開発の専門技術者の新建築者集団という運動団体も加わり、質的にも充実したものになりました。

昨年、市駅前再開発について、市長の進める計画の中心である市役所移転が市議会で否決されましたが、その後も、大企業中心の計画全体はそのまま進められようとしています。今回市民による運動が新たな段階へ発展し、専門家に知見をもとにした、まちづくりの具体的なイメージや、市民が本当に求める具体的プランが提示され、今後の運動の発展が期待されます。

#### 都市計画専門家からの提案・警鐘 本来の公共施設中心の駅前再開発に

#### 枚方の過去の教訓、商業施設誘致⇒撤退の繰り返し

そもそも「再開発事業」は住民生活の防災、安全などを中心に行うものであり、市有地や莫大な市民の税金を投入することと引き替えに商業施設を誘致して企業の利益をはかるものではないことが専門家から指摘されました。

しかも、枚方市駅前の再開発の歴史を振りかえる中で、長崎屋、サンプラザ、三越、近鉄百貨店、ビオルネなど、できては撤退・縮小を繰り返してきており、そもそも大規模な商業施設が人口規模からも過剰なものであったことが指摘されました。鳴り物入りでつくられた T-SITE でも相次ぐ閉店や客足の減少を止めることが出来ていません。

全国的にも、商業施設を誘致しても撤退して、シャッター街や治安・風紀の悪化が懸念される店舗の増加につながっています。

今後枚方の人口減少が確実(令和31年には30万人に)な中で、今回の計画のような大規模開発は、負の遺産になることは目に見えていると、警鐘を鳴らしていました。

全国の実例をもとに駅前再開発で公共施設、公園など市民がだれでも利用し集える再開発こそ、町の賑わいを作り上げていくことを明らかにしていました。

#### 市民中心のまちづくりへ提案

詳しくは⇒



① 緑あふれる駅前の公共空間を 家族連れや市民が集う憩いの場、賑わい空間へ

② 文化の中心に、防災で市民をまもる

駅近の市役所で利便性第一に、中央図書館、市民の公共施設で誰もが利用できる施設+防災拠点に

③ 市有地を民間に売却せず、市民のために時代に応じて更新できる空間に

民間売却で、後は荒れた町並みの懸念、市有地として利用で今後も市民のための更新が可能に



# 令和5年度支援学級数 7月見込みから大きな変化 小学校 -44⇒+9学級へ、中学校 -7⇒-2学級へ 保護者の声が広がり、市教委の姿勢に変化

市教委は、支援教育にかかわる進捗状況を公表、令和5年の支援学級数を公表しました。

昨年1学期に、支援学級在籍児童生徒は週の半分を支援学級での授業方針をしめし、令和5年から実施するとした方針で5月時点で各学校から報告が寄せられた見込み数では小学校-44、中学校-7学級と大幅な減少見込みとなっていました。

その後保護者からの見直しを求める声や、市教委からも保護者説明会などの取り組みで質問、疑問に答えるなど姿勢が変化する中で、方針の見直しが行われ、最終的に小学校+9、中学校-7学級となりました。

他市では、40学級以上の減少となり、学校現場にも支援学級の生徒にも大きなしわ寄せとなっているところもあります。枚方では当事者である保護者の声が寄せられることで、方針の見直し設置学級数の変化につながったことは明らかです。

市教委は、支援教育にかかわる審議会を設置して支援学級、支援教育のあり方の検討をすすめる予定です。

ただし、保護者の委員が2名程度で、市教委関係者、市教委が選んだ専門家が多数の中で、どれだけ保護者や子どもの声を受け止めて審議できるか、不安や批判の声も少なくありません。

文科省では、通常学級に在籍する支援の必要な児童生徒への支援のあり方について検討していますが、少人数学級の拡大や教員の大幅増、子ども学習負担の軽減など、学校教育のあり方全体の見直しを、現場や保護者の声を反映させながら進めることこそ必要です。

## 教員不足は非常事態、 枚方でも仕事や働き方を見直し実現を

**沖縄・山口県では 35人学級⇒40人・38人学級可能に！？**

教員採用試験で定員割れが報道されるなど、教員の過重労働、求められる業務や責任の重さを敬遠されていることが指摘される中で教員不足が非常事態になっています。

沖縄県では4月以降、教員不足の場合40人学級で対応することも可能とされていることが報道されたり、山口県でも独自に小中で35人学級を実施してきたものを、教員不足を口実に中2、中3を38人以下の学級とする通知を出し、現場から大きな反発が出ています。

本来少人数学級は子どもにも、教員にも負担軽減、子どもに向き合えるものであるはずが、教員不足で少人数学級を後退させる本末転倒の事態になっています。

		支援学級	通級指導教室
小学校	令和4年度	281	13
	令和4年7月の見込み	237(-44)	61(+48)
	令和5年度設置数	290(+9)	22(+9)
中学校	令和4年度	97	2
	令和4年7月の見込み	90(-7)	22(+20)
	令和5年度設置数	95(-2)	21(+19)

枚方でも市教委は市独自の少人数学級の拡充で、教員確保の困難をあげて否定的な姿勢を示しています。  
**自民党特命委でも教員確保に「長時間労働是正・業務削減」の意見**

自民党は、教員確保のための処遇改善を特命委員会で検討、調整額の引き上げなどの案が浮上しているとされます。しかし、検討の中で専門家からも教職を敬遠する理由として

▽子供に向き合う時間、授業準備する時間が取れない

▽断れない形で業務が増やされるのに、個人で勝手に残業した扱いになる

▽多くの教員が精神疾患や体調不良になるほどの長時間労働に強い不安を覚えている

の3点を挙げ、調整額、手当の引き上げだけでなく、教員でなくても出来る業務を学校から切り離す、業務の削減、長時間労働の是正に取り組む重要性が指摘されています。

**枚方でも声をあげることで、働き方は変えられる**

**枚方教組キャンペーン、教職員からの声をあげて実現させよう**

これまでも、現場に大きな負担となってきた上からの課題がありましたが、枚方教組としても、市教委への要求や交渉を粘り強く続けた結果、終了や見直しを実現させてきました。

土曜授業、代休日や学校裁量での実施に

陸上大会、駅伝大会の参加見直し

入場行進など細かな指示内容の運動会

授業で先生が実施する中学2年生への民間英語検定の終了

中学校で強く求められた「タテ持ち授業」、学校裁量へ

もっと教職員からの声をあげて、力を合わせて働き方を変えていくために、枚方教組としてキャンペーンに取り組んでいくことを計画しています。

組合の執行部だけの声や取り組みだけでなく、もっと広く教職員から声をあげてほしい、現場が本当に求めている切実な要求や願いを取り上げたい、そのために、組合員や教職員から声を上げてもらい、力を合わせて変えていけるものに取り組んでいきます。

## 現場の困難に応える施策を 山形県の新任教員、単独で担任持たず支援員配置

山形県では、小学校の新採教員について、担任街とするか担任の場合には支援員をつけ単独で担任を持たない形にするとしています。「現場から新採教員が担任を持つことが多く、負担が大きい、という声が上がっていた、新採教員の心身の負担を軽減しつつ、育成していきたい」と実施になりました。支援員には再任用短時間職員、非常勤講師などを当てるとしています。

## 枚方教組に加入して、力を合わせて声を上げよう

学びや交流を積極的に進めて、力を合わせて声をあげることで働きやすい

学校、職場を実現するために取り組んでいます。あなたもぜひ枚方教組に加入して一緒に交流して、力を合わせましょう。

組合加入申込み⇒



